

## まちづくり懇談会 笠置

日時：平成 30 年 11 月 1 日（木）午後 7 時～8 時半

場所：笠置コミュニティセンター

---

### 4. 「はたらく」「たべる」「くらす」の政策について

■企画部長 笠置地区の地域づくりの取り組みについて簡単に説明する。

笠置町地域計画。地域計画とは、現在恵那市では平成 28 年から 37 年の 10 カ年の第 2 次総合計画に基づき事業を実施している。それに応じて各 13 地域で地域計画を作って頂き、地域で出来ることは地域で取り組んで頂いている。平成 27 年度に作って頂き、これに基づき地域でまちづくりを行って頂いている。

地域計画の内容。キャッチフレーズ、「自然・ふるさと・香る・たくましく生きる人が輝く かさぎ」を 10 年後の姿として、計画の柱を 3 つ掲げている。1、若者の住みやすいまちづくり。2、こころ豊かに暮らせるまちづくり。3、笠置のよさをいつまでも伝え続けられるまちづくり。この取り組みを行って頂くに当たり、市から補助金、交付金を交付している。補助金は、地域で行いたいことを取りまとめて頂いて申請頂き、笠置町では本年度 4 事業で 161 万 5 千円。笠置 3 町連携事業として 1 事業 85 万円。交付金は使途の制限があまりない、役員報酬でも良いし事業を行って頂いても良いというもので、13 地区ほぼ均等割で 130 万円。合わせて 376 万 5 千円で取り組みをして頂いている。

計画の柱に沿って補助金の事業を紹介する。

移住定住対策を考える意見交換会の開催。計画の柱 1。主催は笠置振興協議会、笠置移住定住委員会。当初は「準備」ということで始まったが。人口推移から見た笠置町の未来を考えていこうということで、今年 3 回会議がもたれ、現在は「準備」は外れ「笠置移住定住委員会」、9 月に発足して毎月 1 回協議をしている。来年に向けて具体的な取り組みが始まっていくと期待している。

防災・減災の取り組み。計画の柱 2。実施団体は笠置振興協議会。地域の防災意識の醸成を目標に、避難所開設訓練の講師養成や、地域住民で避難所の開設訓練、防災士の認定試験の合格者への費用助成をしている。

地域安全パトロール。計画の柱 2。実施団体は地域安全パトロール隊。安心して暮らせるまちづくりを目指して、毎週水曜日午後 4 時から午後 5 時と月 2 回、1 日と 15 日と交通安全週間に活動している。

高齢者の見守り・ふれあい。計画の柱2。実施団体は見守り笠置「ほっと君」。目的は高齢者が健康で暮らせる仕組みづくり。人感センサー。笠置地区内で14軒取り付けられている。ほっとサロン。昨年度は述べ528人参加。

笠置山クライミングエリア。計画の柱3。実施団体は笠置山クライミング実行委員会。笠置山の環境を生かした魅力の発信を目的に、昨年も新たにエリアが開設されたようで、現在は1,300のコースが設定され、毎年入山者も増え、昨年度は8,182人の入山者があった。

笠置のゆず特産化推進。計画の柱3。実施団体はかさぎゆず組合で、地域資源の活用による地域の活性化を目的にする。昨年は日照不足によりかなり生産量が落ち込んだ。今年は豊作だと聞く。ゆず祭りも今月18日に開催される。多くの方がまた訪れると思う。

笠周3町のアドベンチャーキャンプ。計画の柱3。実施団体は笠置・中野方・飯地運営委員会。笠周3町の連携事業。目的は子どもたちの社会性、創造性を高めるとともに、笠周地域の魅力を広くアピールしていく。今年は8月1日から5日に開催。参加者14人、市内11人、市外3人の参加者があった。

笠置町のキャッチフレーズ「自然・ふるさと・香る・たくましく生きる、人が輝く笠置」これを目指して、林会長の下、地域づくりに取り組んで頂きたい。

#### ■市長 笠置町の状況と事業等について。

人口は平成17年1,567人。直近で平成29年1,273人。世帯は27年をピークに減り始めた。平成17年を100とすると、恵那市全体で-10.9%で、笠置町は-18.7%。生まれる子どもの数は、17年から、10、7、6、8、6、4、8、5、4と増えたり減ったりしている。28年は6人、29年は4人。平成24年を見ると生まれた子は8人で、今は11人いる。3人は外から移ってきたり戻ってきたりしている。子どもの数が生まれたときより増えている。平成20年は6人生まれたが今は3人。3人が出ていっている。29年は1歳、2歳、5歳と、小学校、こども園という機会にぜひこの場所にとということもあるので、そういう運動もして頂きたい。今のところ出生数は-20%。

北小学校は今72人の児童がいて、5年後の平成35年には54人に減る。北中学校は今89人おり5年後は70人になる。まだこれから減る可能性がある。何とか持ちこたえたい。

事業について。

県事業、白川線の防災、落石防止。30年は29年からの繰り越しで2千万円ぐらいの工事をした。

新東雲以降、恵那蛭川東白川線の県道の改良。今週、恵那土木事務所にも要望した。第3工区の事業化を何とかしてほしいということについて。

笠周振興計画に位置付けられた事業。寺田石山線の道路改良。30年度は工事、用地、登記。事業費は1千万円程度を予定する。88mを予定している。笠置線は視距改良で見通しの悪いカーブを直していく。29年度に設計し、30年度は用地などの手配をしており、31年度に予定しているという。寺洞の林道と笠置山の林道の改良。幾つかの工区に分かれており、平成30年度は3、4工区。2カ所で83m、800万円をお願いしている。ご協力ありがとうございます。

笠周振興計画の進捗状況。笠置山整備事業。ボルダリングエリアのトイレは28年度に設置完了。東雲大橋の交流広場は今組織の検討をされていると聞いている。観光マップは26年に完了。市道笠置線の整備は、実施中で、今年度は工事が出来ていない。寺洞の林道と笠置山林道は順次工事している。笠置町の37号線は工事が完了しており、あとは地籍の完了を待ってから行う。寺田石山線も実施中。

笠置コミュニティセンターの改修は28、29年の2カ年で1億4千万円ほどで完了した。地籍調査は、河合がほぼ終わり、今姫栗の辺りを行っている。

リアの送電線。笠置町ではリア対策協議会を作ってもらって昨年からは会合を重ねている。ルート案が提示され、今は、どういうふうに行くかお互いに検討し合っていると認識している。市としては地元の皆様に納得頂けるように、心配があれば何でも言ってほしい。

笠置町。今年度、ボート、カヌーのためのスロープを作る予定。北中学校のテニスコートの横にトイレを設ける。もうすぐ渇水期に入るので工事に入る。

剣の舞。ついこの間私もお邪魔させて頂きましたが、大変素晴らしい伝統文化が残っているというご案内。庭文庫とかカフェ日天月天等、昔から笠置は色々な人にお越し頂いていると思っている。可能性があるので、移住定住も含めた色々な取り組みを行って頂ければと思う。夏祭りでここにお邪魔したとき、東海住宅建築賞を受賞した毛鹿母の家というのがあったと聞いた。これも移住されてきた方ということだ。

笠置は消防団も活発で、今年の市の大会で優勝し、県大会でも優良賞だった。ありがとうございます。

魅力。地域の皆さんが色々面白いことを行っている。たとえば、かかし。毛呂窪ではふるさと公園のオープニングにお邪魔した。大変素晴らしい公園が出来て良いと思う。河合では栃久保の棚田、素晴らしい景観が残っているし、ネコグッズが最近出来たということだ。色々な魅力がある。私どもも一緒に行きたい。

## 5. 意見交換

■司会 地区名と名前を言って質問してほしい。

■市民1 笠置町は自然を生かして取り組んでいくということで、ボルダリングも売りにしているようだが、河合の道木というところで、ソーラーパネルを設置の予定になっていて、ボルダリングエリアの下の辺りに広大なパネルを計画されているようだ。ソーラーパネルの設置についての恵那市の条例の効力がどれぐらいあるのか教えてほしい。

■市長 太陽光発電施設の設置に関する条例。基本的には住宅開発に準じる形で、1,000㎡以上の大規模になる場合は事前に市で許可を受けることになっている。市としては、砂防地域、土砂流出防止危険区域、土砂災害特別警戒区域、急傾斜崩壊危険区域などの指定された区域に関しては、設置出来ない、しないでくださいというお願いをしている。ただし、砂防に関しても、許認可は県にあり、県で一定の手当をして対策を取って許可を得られた場合は市としても止めようがない。なるべくそういうことのないように、地元の皆様と一緒に、適当ではないということを伝える。完全には止まらないがある程度の抑止にはなると思う。

■市民2 市長には日頃から目配り頂き厚く御礼申し上げます。2点要望したい。

1つ目。寺田石山線と市道37号線の改良工事。寺田石山線については4月にも市長にお願いしている。その後6月に、今ここにいる2人の市議と市の建設課に要望書提出をした。10月にそれに対して回答頂いている。8月に建設課長から、今回の450mの区間のことと、全線2車線化について説明頂いた。今回の件は、全体の工事が8千万ぐらいかかり、今年度は用地買収と88mの工事ということで、残りは今後予算を見ながら実施するということだが、何年かかるか分からないという話を頂いた。私どもは、今回の450mは一番工事のしやすい場所であり、1千万円ぐらいしかないということだと、8千万であれば8年かかる。450mなら2年もあれば出来ると期待していたが、今の予想を聞いていると場合によっては10年かかる。早期にこの450mを完成出来るようお骨折り頂きたい。残りの区間も、建設部長の文書では、引き続き検討したいということだが、建設課長の話では、特に入口付近では10億程度もかかるということだし、田沢のバス停付近では橋の架け替え工事があり多額の経費を要する。一部砂防指定地があり、工作物が困難で、全線2車線化は困難だと聞こえる。分からないでもないが、お金がかかっても何とか2車線化して頂くのが私たちの要望だ。特に振興事務所がこの地域に上がってきたことがあり、笠置町のメイン道路になるのだし、県道恵那白川線の災害時の代替道路にもなる重要なものだ。実現に向けて努力をお願いしたい。建設課長の話を知ると、幻で終わるように感じる。そうならないようお願いしたい。

市道37号線。これも、石山開拓地域の大切な道路だ。幅員も狭く、クライミングの人も多く、大変不便だ。この地域は特に土地の持ち主が不明で遅れていたが、地籍調査も終わったのでぜひ工事を急いで頂きたい。

もう1点お話ししたい。リニアに伴う送電線について。姫栗区はどこを通っても人家の近くを通る。電磁波による健康への心配や、景観が著しく悪くなるということや、移住定住を進める上でもマイナスになるということもあり、姫栗地区としては通ってほしくないというのが区民の本当の気持ちだと思う。とはいっても、大きな国の事業で公共性も高いので反対ばかりは言っておれない、賛成ではないが、無理無理通すことを検討せざるを得ないということで、区内に2つのルートを設け、区民が苦悩しながら検討している。市長には現状を聞いて頂きたい。こうしたことから、ルートが決まる段階ではないが、もしも送電がショートしたら送電線の鉄塔が負の遺産として残ってはいけない。負の遺産にならないように、将来にわたって地域にメリットがあるような要望も考えていかないといけない。ルートの検討と並行して地域の要望も検討している。

先日も市のリニアまちづくり課に振興事務所を通して何とか市としての支援や協力、指導をしてほしいとお願いした。市から課長と課長補佐に来て頂いた。リニアまちづくり課の守備範囲ではないという感じで、前向きに対応して頂けるようではなかった。改めて11月6日に市へ行き再度申し上げなければならない。リニアについて私どもは決して望んで通ってほしいわけではない。無理に打開策を見つけようとしているこうした市の姿勢には憤りを感じる。もっと真摯に前向きに親身になって地域のことを考えて取り組んで頂きたい。リニア関係はリニアまちづくり課が窓口になって、市の各課の調整をし、地域の要望の後押しをして頂きたい。

■市長 寺田石山線450m。2車線で改良したいということで、建設部長または課長から回答申し上げた。何とか進めたい。ただ、期間がかかることについてはこれからも考えてなるべく早く出来るようにする。県道との取り付けのところに費用がかかるのはその通りだ。担当が、出来ないとは言っていないが、コストがかかりすぎるとなると選択の幅が広がるので、それも含めて少し検討する時間がほしいということだと思うので理解してほしい。恵那市中の道路を直すため、1カ所に多大な経費がかかると他のところに及ぼす影響が多いので、皆さんに納得頂ける方法を見つけていきたい。

37号線は、ご指摘のとおりで、地籍の問題が残っていた。ほぼ地籍が完了に近づいたので、来年から引き続き残りを行う。

リニアの送電線。大変不快な思いをさせてしまい申し訳なかった。対策協議会、地域の皆様が、決して誘致をするわけではなく、通ってくれと頼んだわけでもないのに来てしまったことに対して、どうしたら良いか、地域をあげて皆様悩んでいると思う。私どもは基本的には事業者の立場ではなく地域の皆様の立場に立って何とか納得頂けるように考えている。引き続き声をかけて頂き、皆様に寄り添った形でうまく出来るように考える。私からもそういった指示を出す。

■市民3 中野方に分遣所ありがとうございます。去年も同じような話が出た。私は毛呂窪だが、毛呂窪では本署から来てもらった方が早いという話があって、これは、誰に聞いても救急は本部で受けるので近い方で行くと言われるが、実際は中野方から来ているという話が出る。本当はどうなっているのか。救急なので早い方が良い。

もう一つは、防災で、木曽川の増水が、今年もかなりあったようだが、市内だけの問題ではないので、それはどういうふうに警報や避難の指示が出るのか。区の中で心配する声が出ている。

■消防長 毛呂窪地域に限らず、笠周3町への出動は、中野方の救急分遣所から出動することになっている。昼間の救急は中野方から出動する。夜間休日はこれまで通り恵那署から出動する。出動の時間を見ると、毛呂窪の郵便局辺りですとどちらからでも12、3分で着くので、中野方の分遣所から出動する。中野方の分遣所が出動しているときは恵那市から出動する。

毛呂窪地区は、心肺停止、もしくはその疑い、重篤な患者は、平日中間は中野方の分遣所、夜間は恵那の消防署からだが、それ以外に中津川市の西消防署蛭川分署から支援出動がある。

■企画部長 木曽川の水位による防災態勢について。水防法という法律に基づき、水位観測所を設けて、ある水位になったら避難指示、勧告をする。それが恵那市内では、阿木川の大門の観測所だけだ。木曽川はそういったところが市内にはなく、中津川市落合に観測所がある。笠置周辺、特に木曽川、久須見のところが関連するが、ここは大井ダムの放水の情報が必ず市に入ってくる。放流の情報、雨量の情報を市で見て、危険なら避難準備情報、勧告指示を、市の判断で出す。市が色々な情報を取り寄せて避難に関する情報を出す。

■市民4 今度笠置ダムで工事が始まるそうだが、工事車両が増えると栃久保の自治体に支障が出てくると思う。市の対応は何かあるか。

■市長 今振興事務所長から聞いた。正確なところをつかんでないので、持ち帰り状況を把握して回答する。

■市民5 子育て世代として話したい。こども園について。こども園になるときに、私はこども園になることに賛成したが、なってみて、どうかなあと思うことが多々ある。利用者と預ける側が選択出来ない。母親が家にいる人は2時帰り、保育園、幼稚園コース、パートが4時までなら4時20分。それ以降は幼保コース。とコースが分かれている。家族計画をして3歳で分けて出産、子育てと考えているときに、おなかについて、生まれた、申し込みに行く、そのときに市役所の人が、「母親が家にいるなら幼保コースしか無理です。」という話が、こども園になったときにあった。どうしようということになって、

「乳のみ児を抱えながら内職をしており4時20分まで預けたいのに。」という話を聞いたときに、そんなばかな話があるかなと思った。そんな中で産んで育てたいまちなかなと思った。定住を進めたいという市の政策と矛盾していると思う。働いているから4時20分まで預けられるとかいうことはどうなのかなと思う。母親は家にいたら仕事をしていないという、産め、働け、という、侮辱されているわけではないが、そういう気持ちになってしまう自分がいた。女性をばかにしていると思った。こども園になって、制度が変わって、保育士の不平不満も聞き取れているのか。今保育士がいないようになっている中で、離職者が増えそうな政策になっていないか。

学童がないと働けない、働けないなら仕事を辞めるしかない、何度も市役所に足を運んで、学童をどうにか通年という話をして、やっと実現したが、恵那北小学校自体専任の指導員がいない。保護者指導の下、今やっているが、限界がある。市が請け負って運営してくれないか。あと2年したら指導員が有資格者プラス講習を受けていないと学童を開設してはいけないという国の制度になるという話になっていて、2年後にそういう資格者が現れなかったら、市として手を入れてやってくれるのか。手助けしてくれるのか。それも心配だし、そうなった場合学童がなくなるのか、そうしたらまた働けなくなるのか。

■市長 こども園の幼保コースが選べないという件。僕は認識不足で選べると思っていた。資格要件にかかわるところで引っかかるという話を頂いたので、持ち帰り確認する。不快に思われるような話があってはいけない。

■副市長 学童について。たとえば瑞浪市だと市が直轄でやる。恵那市は元々学童のスタートから地域の人たちにお任せしようということで行ってきた。そして今、学童はすべての地域に出来ることになった。資格がないので北小学校の学童がなくなるのではないかと言われたが、学童をなくすということは絶対はない。どう行っていくかは相談に乗っていく。ただ、資格のことについても、今回、経験年数、看護師や保育士、あるいは学童を何年か続ければ資格が取れるという市独自の資格要件も持っているので、必ずしも国の要件ばかりではないので大丈夫だ。答えていない部分があれば後ほど答える。女性蔑視ではないかという話があったが、保育に欠けるとかいう法律的な部分があるので、ひょっとしてそういうことでしっかり答えたのかもしれない。ちょっと時間を頂きたい。

■司会 定刻を過ぎた。他に質問がある人は後日振興事務所で受け付けて市長に届ける。

## 6. 市長お礼のあいさつ

■市長 本日はありがとうございました。回答出来なかったものは後ほど調査をしてしかるべき方法で回答する。この場で言えなかったことは振興事務局長や市の職員、市議などに伝えてくれれば私に届くようにする。

■司会 これで閉会する。

[ 閉 会 ]